第３回新規恒久施設等の後利用に関するアドバイザリー会議　議事の内容

オリンピック・パラリンピック準備局

１　開催日時　　平成 27 年 1 月 30 日（金曜日）13:00 から 15:00 まで

２　開催場所　　新宿ＮＳビル 30 階　ＮＳスカイカンファレンス ルーム５・６

３　出席委員　　外部有識者委員　　5 名
　　東京都委員　　14 名
　　組織委員会委員　　9 名　　計 28 名

４　会議の公開　一般傍聴者　　24 名

５　会議内容の概要

（１）第一部　民間事業者からの新規恒久施設等の後利用提案（非公開）

（２）第二部　再開のあいさつ

（３）　これまでの論点整理（「資料１」参照）

- 官民連携をするにあたっても、まちづくりの統一コンセプトなどの点から面的な開発をすることによって、民間モチベーションは変わる。これは、いろいろな民間アイデアを得る鍵になるので、運用を考える際には念頭におくべき。
- アクセシビリティの上でも、点を線や面で結ぶネットワークとして巡回できるような海上交通を含めた仕組みができれば、これからのすごい魅力の１つになると思う。
- 民間事業者とパートナーシップを組むとなると、大胆な規制緩和やスピードが大切になる。仮設を含めて、今までとは違う速度で、違う範囲を一気に規制緩和できるような方法や、柔軟な対応が必要である。
- 交通アクセスの改善の材料として、舟運のほかに自転車等のネットワークを施設間のみならず、施設周辺の公共交通機関を含めて張り巡らせるべき。
- 各施設について、アクセス以外にも、ホスピタリティとかアメニティといった視点で整備された施設であることが大事である。
- 施設整備の見直しに伴い、残ることになった「BumB」が今持つ問題点をとらえ、周辺施設を整備する際に、どうやってそれをサポートし、もっといいものにできるのかということも検討すべき。

（４）新規恒久施設等について意見交換「(「資料２」参照)

- 他の６施設には周辺公園施設等と一体的に考えることが明記されているが、アク

アティクスセンターだけない。辰巳の森海浜公園との一体的な整備はもちろん、その先にある夢の島公園との一体的整備や管理運営を視野に入れるべき。

- 競技団体の希望する後利用のあり方について、競技団体にある程度コミットメントしてもらうような運営上の工夫が必要ではないか。フィージビリティを考えると、それでもできるスキームを考えた方がいいように感じた。
- 歴代オリンピック整備施設の中には、廃墟のようになってしまっているものがある。施設整備の折には、ある程度、出口戦略とかセカンドオプションのスキームみたいなものを想定しておくべき。
- オリンピックを経て、面としてどんな街になるかを考えるとき、「職住一体」で本当に未来型都市というイメージが面として広がればよいと思う。まとめを作るにあたって、これに参加してみたい、ここに住んでみたいと思う人たちに、未来像が浮かぶような情報を選び描くことで、非常にレガシーということを住民に理解してもらえるいい資料になると思う。
- カヌー・スラローム会場には駐車場整備の記載があるが、もっとその整備を考えないといけない施設があると思う。交通のことを書くのであれば、しっかりそれぞれの施設で、何を重点的にやるべきかをえがくべき。
- アーチェリー会場について、「施設整備上検討すべき事項」の中で、公園自身の将来的な再整備を考えるべき。駅前から３５７号線をきれいに越えられるようなもっと複合的な計画を考えていくべき。
- 新規恒久施設等の平日の利用を考えるに、スポーツツーリズムという観点はすごく重要なポイントである。
- コミットするというには難しい部分があると思うが、都の役割みたいな部分も整理して、フィージビリティなどの伴ったまとめになるといいと思う。
- 有明アリーナに「施設整備上検討すべき事項」の中で、「水辺の景観を活かした建物の配置」とある。配置だけではないと思うが、これはアクアティクスセンターこそ言わなければならない事項である。書いていないからやらないということがないよう気を付けてほしい。
- スポーツツーリズムの観点から、これらオリンピックゾーンは、日本におけるインバウンド観光客の集客装置になると思う。ここが日本の見本市機能といったところをコンセプトとして盛り込むと、地方への波及・誘導につながると思う。
- カルチュラル・オリンピアードの部分について、こういう施設整備がうまくつながっていくようなものが目指せるといいと思う。このまとめは、文化活動の発信の１つのチャンスだと思うので、「日本中とつながっていく」という意味で、カルチュラル・オリンピアード的なことを加えることができればと思う。